

ホスピタルエンジニア認定制度

ホスピタルエンジニアの意義・役割

医療・福祉施設（以下、病院等という）の電気・空調等の設備は、患者の生命、医療従事者の安全に直結しています。その特徴は、①他の施設等では見られない特殊な設備（医療ガスなど）であること、②生命に直結する設備（手術室のアイソレーションなど）が多いこと、③高度な知識・運用技術が必要とされる設備（コージェネレーションなど）があること、④他の施設等よりも高い品質（温度調整など）が求められる設備があること、⑤24時間365日の不休の運用および管理が必要であることなどがあげられます。

これらの設備を常に安全・確実に運用・管理するプロフェッショナルがホスピタルエンジニアです。



ホスピタルエンジニアに求められる能力

病院等の諸設備（電気、空調、給排水等）を適切に運用・管理できること

広い範囲の設備に関する「原理構造に関する基礎知識」、「使用に関する基礎知識」「トラブル処理に関する基礎知識」等の基本的な運用・管理の知識を有すること

設備に関して、利用者（医療従事者、厨房等の設備利用従事者など）および設備供給・保守業者等とのコミュニケーション力を有すること

ホスピタルエンジニア認定制度について

目的

病院等（福祉施設も含む）の設備の「**利用・保守等**」に関する**担当者**（技術者）に必要な知識を教育し、病院等の設備の**安全性確保、品質確保、効率的運用**等を図り、病院等の本来の**目的**に寄与する人材を認定すること



正式名称

認定ホスピタルエンジニア

認定方法

講習
2日間
全11時間



筆記試験
1日間
全120問

費用

講習料：17,000円（200頁のテキスト代を含む）

受験料：8,000円

対象者

- 病院等で日常的に電気設備・空調設備等の運用・管理に当たる方
- 契約によって病院設備の維持管理に当たる企業の方
- 病院等で医療機器と設備に関連した業務を行う臨床工学技士や看護師などの医療従事者の方
- その他、病院等の設備に関心のある方

